

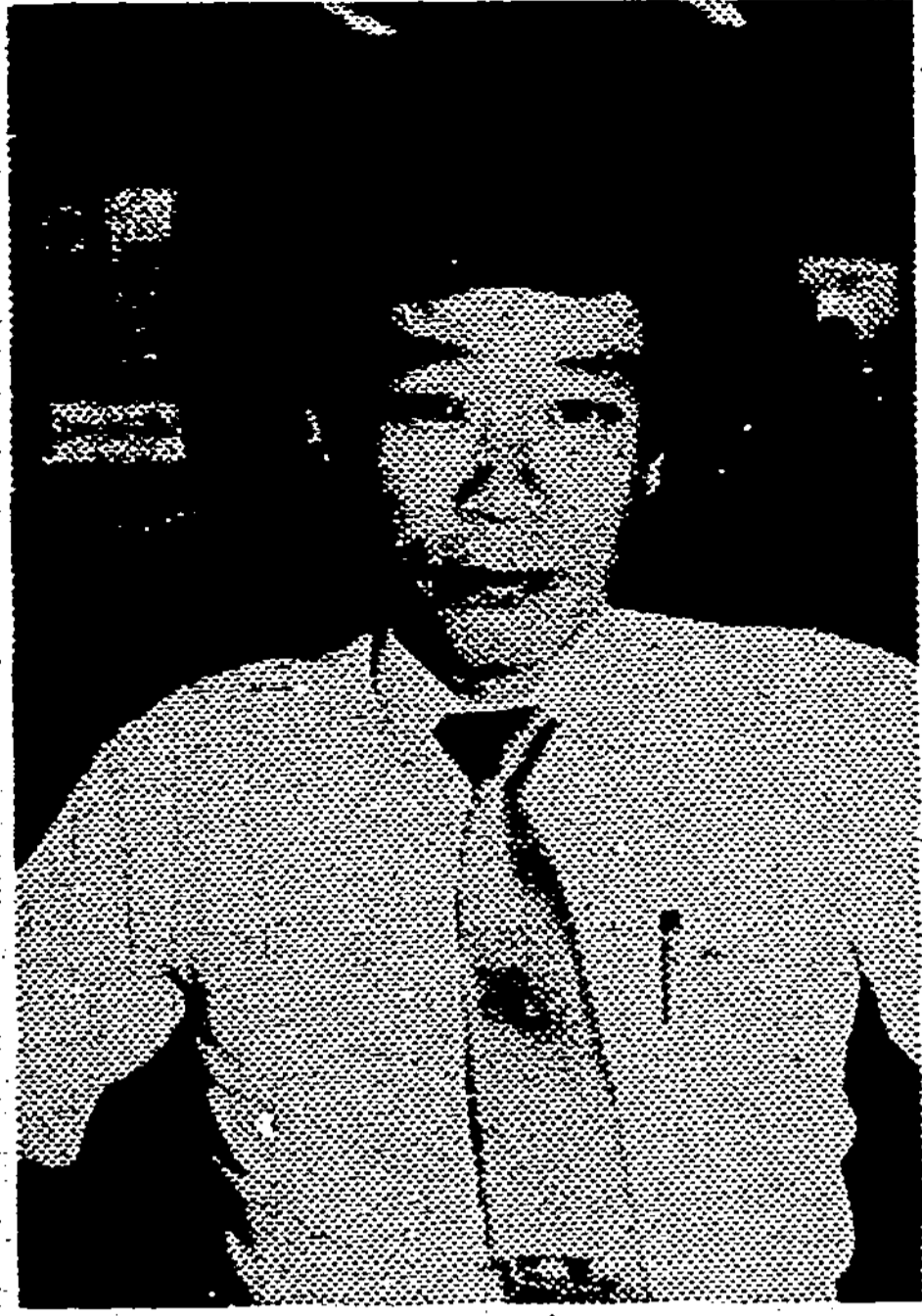
十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
〒080 帯広市東1条南8丁目
電話-編集②2121、広告
③2323、総務・販売③2222
©十勝毎日新聞社 1985

目指せ宇宙基地

将来、手狭論出る

科学技術庁宇宙企画課長 石井 敏 弘さん(46)



宇宙開発プロジェクトを子島宇宙センターで年一回通
練る宇宙開発委員会の事務 信濃星の打ち上げを行って
局、庶務を担当しているのが、今の所、委員会内部で
宇宙企画課。現在鹿島島原種 種子島では手狭になる」とい

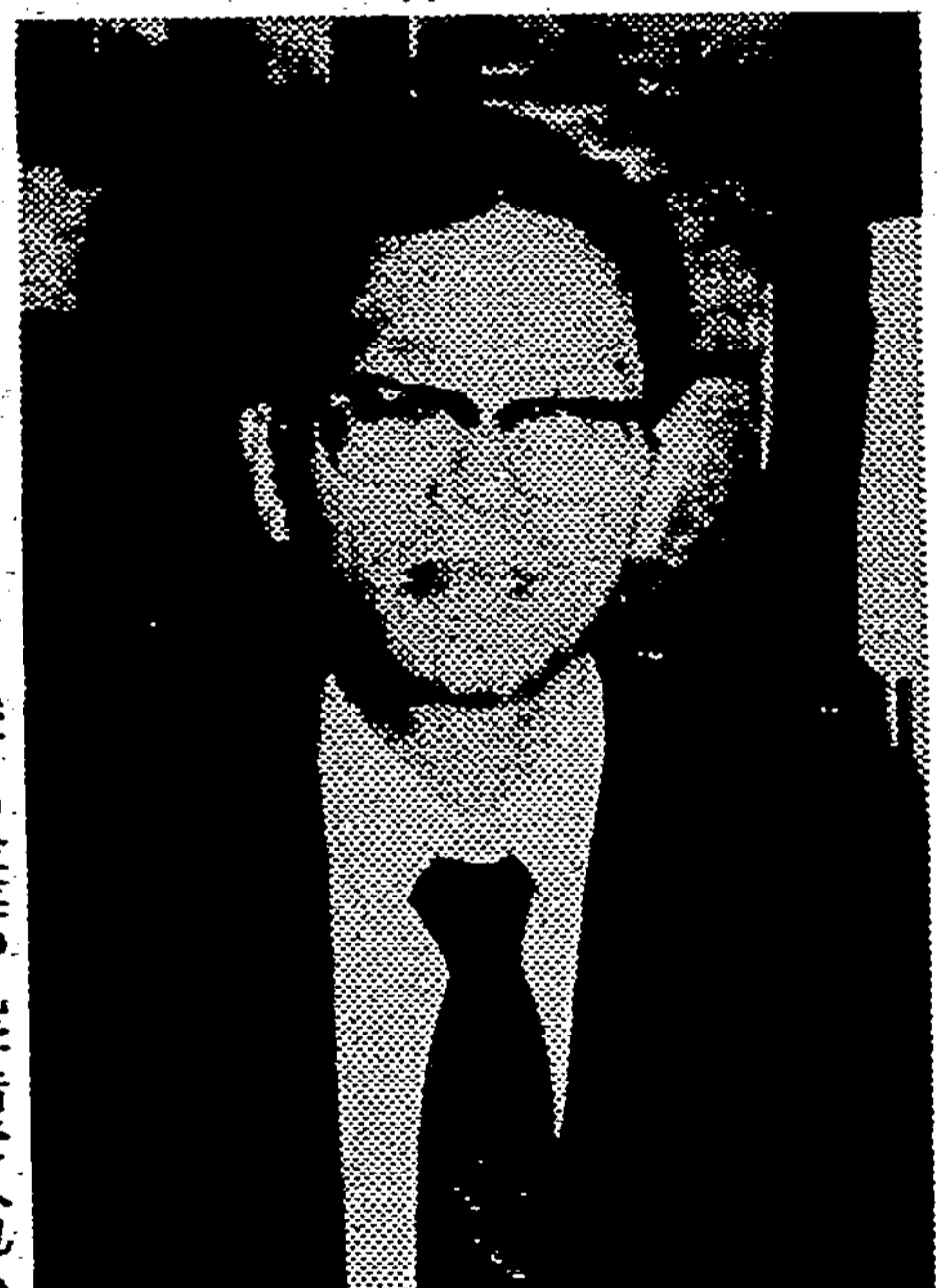
現在打ち上げているのは静
止衛星三百五十を打ち上げ
る能力を持つN-IIロケッ
ト。来年二月からは五百五十
が可能なH-IIロケットが
打ち上げられ、六十七年ごろ
からは二丁の能力を持つH-I
は今後必要とみられる。
NASA米国防航空宇宙局
は一九九〇年代初めに地上五
百キロのところに宇宙ステ
ーションを造り、そこで新素材
バイオテクノロジー(生命工
学、新薬品の実験、製造に乗

ロケットの予定だ。どうい
う衛星を開発して、どの規模
でもるかはまだ未定だ。
現在打ち上げの際、夏期と
冬期射場を占拠してしまう。
しかし、H-IIになると、組
み立てと打ち上げが並行でき
るようになり、やや余裕が出
来るのが今の見通し。
おまけに赤道を回る静止衛
星の場合、赤道に近い南の方
が有利。北ほど燃料が必要な
ため、決して北はプラスで
はない。

宇宙開発は宇宙開発事業
係する企業や見学者を入れる
団に関する事を担当してい
る。種子島宇宙開発センター
について言いつ、ここには事
業団職員が百人住んでいる。
これが打ち上げの時となる
げられないのは地元漁民との
と、その倍になり、さらに関
連業保障の問題があるため

まず関連工場誘致

科学技術庁宇宙企画課長 鍵本 潔さん(46)



海城に補助ロケットが落ちて
くるので、一定の区域を立ち
入り禁止にしている。しかし、
その他の面では打ち上げ場が
あるということによるトラフ
ルはない。
例えば騒音にしても一時的
なので漁に与える影響は全く
ない。種子島は漁業の外に米
サツマイモ、サトウキビなど
の農業が主産業だが、もちろ
んそれらに与える悪影響もな
い。
科学技術庁は「道航空宇宙
産業基地研究会」からシン
ポジウム参加の申し込みを受
けており、当日はどちらから
も出席するが、とにかく現状

を知ってもらいたいと思っ
ている。
確かに五十年前先の計画で
は種子島以外に打ち上げ場を
つくる」といった計画はな
い。しかし、五十年、百年先
となるべく全くわからない。
私見だが二十一世紀に日本
の航空宇宙産業が発達すれば
種子島だけでは足りなくなる
かもしれない。
日本もスペースシャトルで
月へ有人飛行する時代になる
と確かに飛行場は必要になる
し、それは夢ではない。
北海道に航空宇宙産業基地
を持つていくとなると、まず
打ち上げ場にたわらず、民
間を含めた関連工場、例えば
宮崎県のロケット開発センタ
ーの誘致からはじめるのが得
策だと思ふ。そのためには北
海道でつくるメリットを考え
るべきだろう。